京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

發行所 京城新報社
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二二一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

文學上より見たる謡曲

秋川生投

▲凡そ巧みに書ける文章は和文にせよ漢文にせよ、洋文にせよ、各々妙味あることとなるが、中にも讀む度に趣味を加ふるは謡曲の文章なり

▲謡曲の文章中には古書の成句あり、佛典の妙句あり、古詩あり、古歌あり而かも其補綴妙を得て一種特獨の體を露せり

▲語を換へて言へば、漢文調の壯重森嚴と國文調の典雅風韻との二要素に交ゆるに幽婉深奥なる佛典の妙句を以てせり

▲故に謡曲の文章は、文致自から幽婉修僚なるもの多く、時に崇高典麗、殆んど天來の聲調を帶ぶものあり

▲勿論創意上より言へば左までの價値あるものに非ざるべし、而かも其補綴の巧に至りては、實に妙を極む

▲巧に寸錦斷繍を補綴し、配合の麗はしき一文を結び成せる手際は、眞に國文中古今其比なし

▲殊に余輩の趣味を感ずるは、其補綴配合の自然に出で、毫も木に竹を接げる如き跡なきに在り

▲漢文も國文も詩も歌も、結合頗る密接して、能く調和し、一句より他句に移る處、滑らかなるは謡曲の文章に見るべし

▲漢詩は意譯せられず、多くは其儘形を變へて引用せられつゝあり、例せば「船辨慶」の「渡口の郵船は風靜まつて出づ、波頭の謫所は日晴て見ゆ」の如き朗詠集の詩「渡口郵船風靜出、波頭謫所日晴看」を引用せるもの其例頗る多し

▲又僅に語を加へて引用せるものあり「竹生島」の「緑樹かげ沈んで魚樹にのぼるけしきあり、月海上に浮んでは、兎も波を走るか」の如き是れ僧自休の竹生島に詣でたる折の詩「緑樹影沈魚上木、清波月落兎奔浪」より來るもの也

▲謡曲の文章を一讀して、美文上最も價値あるべく思はるゝは、道行と叙景の文なり前者は數十里の路程に僅々三行四行乃至五六行の内に縮め、千里も一歩の如く旅情を寫出す文句なり則ち「高砂」の「旅衣、末はるばるの都路を、けふ思ひたつ、浦の波、舟路のどけき春風も、いく日來ぬらん跡末も、いさ白雲のはるばると、さしも思ひし播磨潟高砂の浦に着にけり」は其一例なり

▲後者は山水を叙して旅情を踏ふもの時に應じ、情に從ひ、景色と相映し頗る人を動す力あり

▲「八島」の「月のゆくゑに立ち消へて霞に浮ぶ松原の、影は緑にうつろひて海岸こゝとも知らぬひの、筑紫の海にやつゆくらん」は亦其一例なり

▲其他「次第」「地の詞」「論議」「歌曲」等各々美文としての價値を有する者多し

▲奈良朝文學の代表者は萬葉集、王朝文學の代表者は源氏物語とは既に文學者の說ある所なり

▲果して然らば近古文學の代表者は謡曲なりと謂ふも、敢へて過言に非ざるべし

▲漢文國文相親みて極端に失せず、言文の隔り著しからず所謂言文一致に近きは謡曲の文章の特質なり

雜報

●龍山の水道工事　龍山に於ける水道工事は第一期として各兵營、官衙、病院等に配給すべく陸軍にては目下豫算の編制中にて多分本年中に着手を見るべく第二期工事として各官舍及軍屬舍宅等に給水すべしと云ふ而して十五間道路方面へは明年度に於て通水の筈にて從來鐵道局が専用の水道は近々京畿道廳の管掌する水道に合併するに至るべしと云ふ因みに舊龍山の配水は京城水商組合の範圍外にして特に當分其營業を許し居れりとの事なり

●群山元山諸港の水道　群山には從來飲用水非常に不足にして困難しつゝありしが同民團の計畫もあるを以て今回總督府にては明年度より約三十万圓を補助し水道の設備を爲すべく尚元山も既に同民團よりの申出もあれば近々技術員を出張せしめて調査に着手せしむる筈なりと云ふ

●製鹽改良の方案　天日製鹽は目下專賣局に於て設置實行中なるが更らに新式の方案にて製鹽に從事する事は歐米にて試みられつゝあるが其成績良好なるより今回專賣局にても異空釜を使用するの案を立て協議中なりと云ふ

●砂防工事進捗　京城三角山に於ける砂防工事は其後非常に進捗し第三期工事も既に了りて目下第四期の半なるが遅くに終了さるべき筈なりしも降雨のため延期となり快晴次第一週日位にして竣成すべしと云ふ

●土地調査技術員募集　臨時土地調査局技術員養成所にては第三回技術員の募集をなしたるが出願者約二千人にて京城、大邱、平壌の三ヶ所にて試驗を擧行する筈にて受驗者中不正行爲をなす者あるを以て十五日受驗者全部の寫眞を撮り來る十九、二十の兩日に採用試驗を行ふ由

●又々害虫發生　咸鏡南道安邊郡地方にては「シノナポーク」と稱する害蟲發生して黍、粟の被害尠からず

●農林校の授業開始　忠清北道の清州農林學校は來る九月一日より授業を開始すべし



與四郎

妙子の兄

與四郎君は十七、妙子は十四、相對して居る所を見ると極めて美しい感じが起る、其交りや極めて神聖だから。

與四郎君は色の淺黑い、身長の高い肥肉な逞しい男らしい骨格を持つて居る著衣を肩に捲り上げて美しく發達した筋肉美を見せて妙子に對して何か運動法の蘊蓄を洩して居るらしい。

「女だからつて運動は必要ぢやない、否、女だから猶必要なんだ、家庭を料理する婦人の病身なのは一家の上の光榮を悉く削り去るものだ、所天は内に於て不足するものを外に求める、兒童の教育は等閑になる、自身の心は僻む即ちヒステリー性に陷るとなると一家の幸福は悉く犧牲になつて終ふ、婦人が其の處女時代に於て區々容姿の美に拘束せられて運動を等閑にした結果は左樣なるんだ、恐るべきもんさ」與四郎君の舌は滑かに回轉する。

「惱むらくは妙さんの弊處、又此所は妙さんの如く精神の鍛冶、然り殆んど天然的に精神の鍛冶された玲瓏玉の如き人は現代に多く其の儔を見んよ、併し惜むらくは好漢……好漢でなきや口調が惡いよ……嘗いつてことです然うしとこうよ、ね……其の惜むらくは好漢、容姿の美を希ふに急にして身體を練るのを忘却してるナ」

與四郎君は得意の如だ。

「妙さん、若途中で惡漢に逢つて斯うされたら何うする、此の場合容色の美何んの價値がある」僕はソッと覗いて見た、與四郎君は力を籠めて妙子を抱きスクメて居る。

妙子はと見るとニコニコ笑つて居る、と思ふ間もなく與四郎君は「ワッ」と云うなり飛び退いて、

「擽ぐつちや卑法だ」と力むで居る。

文苑

◉霖雨歎　秋川漁郎

霖雨蒼生乘筏來。恰如石上露苔苔。
含南舍北水光開。時有舟中吏分食。
一路荒林飢鳥哀。牢村破攏臥牛痩。
陰雲屯在洛東隈。昨雨又添新漲濁。
自註曰、限東江流域出水最甚末句故及

◉雨後偶成　同人

夏山經雨綠頗舒。朝霧對來身添如。
何歎蹉跎違宿志。不須鮮鯢買鹽車。
風塵無到一壺飲。天地自寬陋巷居。
群犬去來成伴侶。暴時時就酔餘書。

◉寄白川詞兄　同人

南北何歎風馬牛。如今到處有書郵。
諸君時寄箕城信。要繼從前翰墨遊。

◉贈牛壕幽石君　同人

屢詠大同江畔天。騷人樓閣在何邊。
偶然相遇偶然別。共語胸襟期再緣。



召使お初

第百五回　露法師

佐十郎は心から悔悟したと云ひつゝ、その詞には偽りありき、その口上には何は飾ありき。

「實はうの……實はまだ確と、御定めござりませぬで、行く行くは二三百石頂戴のお約束もござりまするか、只今は百石ー百石のお墨付、御家老お手許に御取り置かせでござりまする」

「百石でもよい、五十石でも可い、武士は御知行に膝を折ることとせぬ、武士の命は外にある」と佐五右衛門は機嫌よく「徳兵衛、今聞いた通りぢや獻んで異れやうぞ」

「まことにお芽出度い事でござりまする、實に歎ばしいことでござりまする」と徳兵衛は嬉しげに「若旦那樣、お身の光り現はれて、此樣結構なことでござりませぬ」

「徳兵衛參りか、お道殊の外厄介になつたさうぢや」

「いゑも、一向お役に立ちませぬ、只今これにて承はる處、あなた樣も濱田樣お屋敷へ御仕官あらせられた身でござりまする、お道樣に申し、あなた樣まで、同じお屋敷に御奉公、斯う申す私も年來お出入り、格別御厚恩を受け居りまする、斯樣に三方四方、同じお屋敷に陰に由るも、前世からの約束事と存じられます、此後とても御贔負、此彼とも御入魂、お引立てお願ひ申し上げるでござります」

「其處で今日はお父樣、お母樣へ折入つてお願ひの筋ござりまするがお聞き届け下さるでござりませうか喃」

「改つて申すの」と佐五右衛門は笑顔なり。

「妹お道の身について、御相談申し上げたい事でござります」

「はての」と佐五右衛門は眉を顰めて「今日はお道の事ばかりを聞く、何事ぢや」

「お道事只今では奥方付き、中年寄でござりまするが、彼の器量、周防守樣御目に入らせて、急々お側へ差し上げよとの御諚ござりまする氣、由て奥方よりお事お道へ仰せ聞けござりまするもお道深く義理を申して、御意に從ふ氣色ござりませぬ故、私は同胞の誼に由つて一應說得致すやうとの御諚、奥家老佐野主膳殿より滋々御相談を受けてござります」

「はての、困たこと出來て參つたの」

「然し御存じの氣象、私より心付き申し遣はすとも、一たんうれと思ひ込んだ事、聞き入れる事あるまい推量、されど餘儀とは違ひ、御前お目に止まつて、表面奥方へ御所望あらせられの事否やあつては奥方御一分も立ちませぬ御前御威光も廢りまする、御前お手付、お和子樣出生ともある時は妹の出世、うかと存じ、今日わざわざ參つたは、父上よりお道へ向け、奥方御詞に從ひ奉るやう心付けのお手紙、お認し遣はしなさせられて………」

「や、什麼かと思へば、存外の口上、たゞながら正木佐五右衛門の娘、周防守樣御歡みには、さし上げぬ、奥方へ義理を存じ殿樣お詞を聞んともあろ、流石は道流石は私の子、お主とは心が違ふ、まさかの時はお下り願ひ出て、私の手許へ引き取るとも、女の操を立身の種にまで食溺呑ませうさする、存外の痴者、左樣な事で武士の一分立つと思ふか、早や歸れ、さつと歸れ、たまる」と佐五右衛門は以ての外の詞、徳兵衛は只惘れ顔なり。

「さらば斯樣に申し上げるを、お聞き容れござりませぬな」



東京電報

●日英同盟條約（改正）

日英同盟條約は世の趨勢に隨ひ改正の必要あるを以て過般來兩國政府間に秘密交涉中なりしが今回協定成立し十五日午後發表されたり全文左の如し（十六日倫外再發）

●日英同盟條約（全文）

日本國政府及大不列顛國政府は千九百五年八月十二日兩國政府間に締結せる協約に代へ新約款を以てすることを希望し

東亞及印度の地域に於ける全局の平和を確保すること

淸帝國の獨立及領土保全並に淸國に於ける列國の商工業に對する機會均等主義を確實にし以て淸國に於ける列國の共通利益を維持すること

東亞及印度の地域に於ける兩締盟國の領土權を保持し並に該地域に於ける兩締盟國の特殊利益を防護すること

を目的とし左の各條を約定せり

第一條

日本國又は大不列顛國に於て本協約前文に記述せる權利及利益の中何れか危迫に迫るものあるを認むるときは兩國政府は相互に充分に且隔意なく通告し其侵迫されたる權利及利益を擁護せむが爲め執るべき措置を協同に考量すべし

第二條

兩締盟國の一方が挑發することなくして一國若は數國より攻擊を受けたるに因り又は一國若は數國の侵略的行動に因り該締盟國に於て本協約前文に記述せる其領土權又は特殊利益を防護せむが爲め交戰するに至りたるときは前記の攻擊又は侵略的行動が何れの地に於て發生するを問はず他の一方の締盟國は直に來りて其同盟國に援助を與へ協同戰鬪に當り媾和も亦雙方合意の上に於て之を爲すべし

第三條

兩締盟國は孰れも他の一方と協議を經ずして他國と本協約前文に記述せる目的を害すべき別約を爲さゞるべきことを約定す

第四條

兩締盟國の一方が第三國と總括的仲裁裁判條約を締結したる場合には本協約は該仲裁裁判條約の有效に存續する限り右第三國と交戰するの義務を前記締盟國に負はしむることなかるべし（附記此の一條は今回新たに規定せられたるものなり）

第五條

兩締盟國の一方が本協約の規定に依り兵力的援助を他の一方に與ふべき場合に於ける條件及其援助の實行方法は兩締盟國陸海軍當局者に於て協定すべく又該當局者は相互利害の問題に關し相互に充分且隔意なく隨時協議すべし

第六條

本協約は調印の日より直に實施し十ヶ年間效力を有す右十ヶ年の終了に至る十二ヶ月前に兩締盟國の孰れよりも本協約を廢止するの意思を通告せざるときは本協約は締盟國の一方が廢棄の意思を表示したる當日より一ヶ年の終了に至るまで引續き效力を有すべし然れども若し右終了期日に至り同盟國の一方が現に交戰中なるときは本同盟は媾和の成立に至るまで當然繼續する右證據として下名は各其政府の委任を受け本協約に記名調印するものなり

雜報

●國費苗圃の事業

國費を投じて經營しつゝありし苗圃は從來六ケ所なりしを本年度に於て更に六ケ所を增して十二ケ所となし江忠原南の兩道を除きたる各道に存置し其總面積は九十四町步なるが播種の石數は二百二十三石插條百四十六万本床替九百十四萬本、据置八十二萬本にして內京畿道は最も多く各道に比し約三割を占めたりかくして今後每年千三百萬本の苗木を產出するの計畫なりと云ふ尙在來の六ケ所の苗圃にて生せし苗木は三百五十七万本にして不顆の買入れしもの百五十七萬本あり此內國の造林に使用せしは七十八萬本其他は悉く民間の希望者に配付したりとの事なり

●經濟概況

六月中の經濟概況　米豆は引續き上騰せるも農繁期に際し商況は一般閑散なり唯內地新關稅法實施期切迫の爲め米豆の見越移出ありたると上半期決算期に當り資金の需要を喚起せるとに依り金融稍々繁忙を告げ銀行券發行高は二千二百四萬七千圓にして前月末に比して三十六万餘圓を增加せり（朝鮮府報概報）

●鐵道收入增加

七月一日より七月十日に至る鐵道局調査に係る京釜及京義兩線に於ける總收入金十万八千百五圓なるが之れを前年の同期に比すれば一萬二千百四十七圓の增加を見たるが今期十日間に於ける客車收入は五萬八千八百六十一圓にして貨車收入は四萬九千二百四十四圓なりしと

●咸鏡南道產業一班

▲煙草作の有望　本來農產物稀少なる地方のことゝて大豆、荏子の外農產物は云ふに足るものなしと雖も唯だ煙草は有名なる產地黃海道谷山地方の產と大同小異の物を產し現在に於ても既に多大の需要あり而して其栽培は逐年增加し之が改良及產出額の增加は元山地方に卷煙草製造業を起すに依て大に發展を見るならんと特に黃海道江原道平安道咸鏡道の四道接觸點は煙草栽培に於て土質上最も好適の地として其品質も他地方に比すれば稍優良なれば今後大に需要の途開け少しく栽培乾燥等に改善を加ふるあらば將來有數の產物たるべく其供給益々增加するに至るべし

▲重要水產物　道內新浦、陸浴、前津、新昌、遮湖等各地沿海は鮮人に最も需要多き明太魚の產地にして永興灣內外にて鯡、鰮、鯖、鰈、鮭、石花菜等を漁穫し道海岸の一面に亘り海參鮑を產し總額二百萬圓餘に上り內百萬圓餘は明太魚の漁獲にして朝鮮人の事業に屬し海參鮑石花菜の三種は內地人の事業に係れるも水產物の加工に關しては殆んど見るべきものなく僅かに寒天原料として需要せらるゝ石花菜及び牡蠣殼の二者あるのみ曾て鰮より魚油を搾取せし事ありしも利用の途鮮士に開けざるを以て失敗に歸したり將來交通機關發展し隨て內地人の來往頻繁とならば鮑其他貝殼の細工類、鰮、鯡等の魚油搾取、鯖節及鯣、鰈鱈の精製、鑵詰テンプ粕濱鹽漬味附等の加工事業は最も有望のものならんと云ふ

▲無盡藏の鑛物　咸鏡道の地は實に諸鑛物無盡藏なり四十三年六月末調査により咸鏡南道中の許可鑛種及鑛區數を記さんに金鑛十五區銀二區銅六區鐵一區金銀鑛六區銀鉛一區石炭三區黑鉛三十區にして內地人四十八鮮人廿外人四名にして元山港より移出の金屬鑛物價額大凡そ一ヶ年五十万圓餘なりといふ

●仁川大連航路將來

過般滿鮮沿岸各地航運狀況を視察歸東せし今岡遞信船舶課長の安奉線開通後に於ける航運豫想談を傳聞するに開通後は從來大連港より乘船歸國せし旅客を或る程度迄同線に吸收さるゝに到るべき事勿論なれば其結果將來商船、郵船の定期航路に一打擊を加ふ事とならんと大連港より海路仁川に赴き同地にて京釜鐵道に乘換へ釜山に出づる方時間に於て頗る利益なれば今後の有望航路は云ふ迄もなく大連仁川間航路にして彼の仁川、元山等の資本家が三百萬圓の會社を興し四分の一を拂込にて滊船會社を起さんとする計畫なるが如き多分此間の航路を開始することに着眼しをる可く又結氷期中仁川に延長する北清輪船公司航路は此意味に於て大に一般より歡迎せらるゝならんと語れる由

●商議懇親會

京城商業會議所が役員改選の後に於て議員の懇親會を開くことは每年の例なるが本年は役員改選を了らざるも十日都合により六日夜花月樓に於て之を開催し參會者は議員全部の外過日來議員間の紛擾に調停の勞を採りたる古城和田の兩氏及び各新聞記者等にして各歡を盡し散會せしは十時なり

●●會議所臨時總會　京城商業會議所議員間の確執は古城和田兩氏の仲裁に依りて圓滿に解決し既報の如く十七日午後七時より臨時總會を開き副會頭以下役員の選擧を行ふことに決せり

●仁川土地調査

仁川　市街及管內に於ける土地調査の狀況に就て同局員の語る處を聞くに同地は四十三年十月二十六日の準備調査に着手（申告書の取纏めを云ふ）本年三月二十六日を以て完了し昨年十一月二十二日より實地調査に從事し係員一同午前八時より午後十時まで晝夜兼行にて進捗に努めしを以て殆ど終了を見るに至り現今は測量に從事中なれば來る九月中には全部の完了を見るに至る可しと云ふ然るに仁川は開港以來古き歷史を有する事とて土地疆界に付き種々紛爭あり孰れも自己の主張を本位とし容易に退步和解せざるもの夥しく而して調査委員の迷惑も一方ならず結局疆界紛議は地方土地調査委員會及高等土地調査委員會にて審議し同總裁の裁決に依り決定を與ふるに至るべしと因に同管內は元十面八十九洞なりしを今は合同して十面四十八洞となり府及管內にて土地調査の數約三萬筆なりと

●京城水道の斷水

連日來の强雨は漢江の水量を增し爲めに纛島水原地に於ける排水池の鐵管に浸水の爲め異狀を生じ爲に十七日午前八時頃より全市斷水の止むなきに至りたるが故障の個所に對して應急修繕を加へんとするも浸水の爲め容易に其部分を發見しがたく又時候柄一般に對し飲料水不給の結果惡疫流行の媒介たらんを恐れ當局にては出來得るだけ迅速に應急修理をなし更に傍ら他の方法に依りて從來水道使用者に對し給水の處置をなさんと協議中なるが何分早速の事とて容易に決定せざるも多分十七日中に夫々處理の運びに至るべし

●斷水 總長の訓令

別項の如く水道上水鐵管に故障起り十七日より京城市內に斷水を見るに至りたるを以て明石總長は直ちに市內各警察署長及分署長憲兵分隊長に對し井水使用に關し左の各項に據り嚴重施行すべき旨訓令を發したり

一、井水の純良なるものより先づ飲料に供せしむること
二、平日使用せざる井水は直ちに井戶換を爲したる後水汲みとらしむること
三、飲料に適する井水には臨時飲料水の木札を揭出すること
四、井戶側の破損せるものは急ぎ修理し井戶に近き下水を浚渫し其他周圍の衛生狀態に注意せしむること
五、溪水の飲料に供し得べきものを調査して汲取せしむること
六、飲料の適否の疑はしきものは至急總監部に送付し檢査せしむること
七、自家用に差支なき限りは他の使用を拒まざる樣一般に警告すること
八、混濁せる井戶は砂又は木炭の濾過するが又は明礬にて濟澄ならしむ等の處置を執らしむること
九、飲料に供する水は必らず煮沸して用ひしむること

●給水善後策

京畿道廳にては給水斷絕に付き善後策攻究中なるが鐵道局と交涉し鐵道用水を以て一時の急に應せんと鐵道局に交涉す

●民團と給水

今回の給水斷絕に就き京城民團にては目下京城本町の噴水に使用しある南山水道を給水する事となりたるが給水方法に付ては警務總監部及京畿道廳と協議の上最も公平なる方法を取るべしと

●水道復舊期

水道鐵管の破損は既報の如くなるが漢江減水後にあらざれば復舊の見込なく少なくも今後一週間以上の時日を要すべしと

●應急給水法成る

別項水道斷水後の善后策に就ては當局官廳にては種々苦心の末別記の如く龍山鐵道局所管の水道水を引き一時の急に應ぜんとし其旨鐵道局に交涉中の處鐵道局にても快よく承諾せしを以て京城の水道鐵管と鐵道局鐵管とを連絡して引水することに決し十七日午後一時より晝夜兼行にて連絡工事に着手し十八日午後五時より一般に給水することゝなるべし但應急給水は飲用水の外に使用するを禁じられたり

●各地水害慘狀

利川驪州間の諸川氾濫し交通杜絕し雨猶ほ歇まず（十五日午後驪州）昨夜來の豪雨にて淸州附近一般に氾濫し淸州住民は目下避難中警察は救護に全力を盡しつゝあり水は益々氾濫し淸州邑內は八分通り浸水し炊出し救護を受ける者約千名の見込なり人畜の死傷目下不明（十五日午後淸州）洛東江減水避難者は漸次歸島鮮人中駐在所に來り救護に關し謝意を表する者多し而して本報中避難者は柳斗洞、三樂洞の日鮮人にして兩洞は洛東江中の島なり（十五日釜山）古阜方面に負傷者一、家屋全潰二十三、牛潰二十四、其他小屋樹木の轉倒あり尙は扶安茁浦繫留中の漁獲一艘堤坊決潰の爲め岩石に衝突し破損せしも人畜に死傷なし一時開通せし全群道路及益山管內は昨日來の豪雨にて目下交通杜絕せり（十五日全州）本日碧潼河增水六尺溺死一、碧潼會倉間の交通杜絕す（十五日平安北道）十三日よりの强雨にて錦江其他の諸川增水し今朝に至り激增午後三時よりは市街出部浸水し江景を中心として周圍數里は海の如し目下救護中尙增水しつゝありと公州へは電信不通（十五日全北江景）郵便物は今朝公州局差立鳥致院行は辛ふじて錦江を渡り得たるも途中の狀況不明、論山、定山方面は交通杜絕の爲め途中より引返す錦江は二丈五尺增水し目下渡船止る太田は鐵道構內を除くの外浸水床上に達す避難者は警察署、劇場に收容の手配中鳥致院は市場全部浸水救護中、禮山邑市場附近の橋の流失五（忠淸南道）錦江の增水公州附近に於て現在二丈に及び邑內に氾濫し尙增水の見込なり鐵道線路は鳥致院全義間切斷一ヶ所全義小井里間切斷二ヶ所天安成歡間切斷一ヶ所築堤二ヶ所壁落破損あり復舊工事中にして開通の時刻未定（十五日公州）其後益々增水し倒壞家屋十餘戶普州學校內に避難所を設け昨夜より炊出をなす市內は小舟を以つて村落は小蒸滊船にて救護に勉む（十六日午後江景）錦江は論山附近にて十五日午後一時增水二十五尺となり邑內全部浸水し駐在所は船八艘に船夫三十二名を雇ふて救護す家屋の全壞六十五半潰三十一鮮人三名溺死す（十六日夜忠淸南道）淸州、鳥致院間は十五日朝より電報不通となり堤坊壞し淸州邑內浸水家屋約五百七戶各地方と交通杜絕す（十六日淸州）

●龍山と洪水

漢江の水量は十六日午前四時に於て二丈三尺九寸增水し浸水家屋は麻浦三十五、士里六亭東幕五、倉前里十七、龍山元町一丁目一計六十四なり、麻浦東幕間の觀潮樓は三時三十分に於て既に水に浸し橋上の浸水二寸を示せり、尙ほ多少の增水の模樣あり內地人は龍山本願寺、麻浦鮮人は同地鮮一銀行出張所に避難收容する見込なるも未だ收容したるものなし尙十七日午前八時三十分には二十六尺增水

●總長水害視察

明石警務總長は十六日午前六時より乘馬にて龍山に赴き漢江沿岸の水害狀況を具に視察して午後歸邸したり

●京釜線開通期

十五日來水害の爲め不通となれる京釜線は目下多數の人夫を使役し復舊工事に從事しつゝあるが伊院、鳥致院間約三十哩今尙開通せざるを以て多分十八日の一番列車より開通すべき見込なりと云ふ

●馬山線不復舊

馬山線は今尙ほ不通なるが昨今の洛東江出水の模樣にては當分は開通の見込立たずと

●新義州貿易（好況）

新義州が國境貿易路上の要衝にして比年貿易額の增進を示し常に輸移出超過の形勢を保ちつゝあるは最も悅ぶべき所なるが最近の統計によれば本年度上半期貿易は總計百十万四千百十一圓に達し內出貨五十六萬入貨四十五万にして之を昨年同期の八十九萬一圓內出貨五十九萬二千四百七圓入貨二十九萬七千五百四圓に比すれば總計に二十一萬四千圓出貨六万二千入貨十六万一千圓の增加にして出貨增比一割入貨五割を示し出入の間增比に大差あるも其移出は移入に超過すること二十[illegible]達したり而して去る六月中の[illegible]十六萬八十四万を數へた[illegible]なるものは大豆、米、雜穀、木材、皮[illegible]にして入貨の重なるものは[illegible]酒類、雜器類なり

●平安道林業獎勵

[illegible]就ては過日來成川、江東、順川、价川等の各郡へ出張せしめつゝありしが尙[illegible]西中和郡地方へ向け農民の爲め道廳岡本林業囑託[illegible]起の爲め林業植栽に關す[illegible]更に出張せしめる由

●平壤最近貿易額

[illegible]張所に於て本月一日より[illegible]取扱ひたる貿易額は輸移[illegible]百三十[illegible]圓輸移入五萬五千[illegible]て金塊の移出は二十三萬[illegible]りしとのことなり

●鷄豚下附の出願

[illegible]般に農事上の改良に注意[illegible]たる結果米種の改善は勿[illegible]鷄豚等の改良種を交付さ[illegible]するもの續出し當局にて[illegible]顧意を容れたきも若し多[illegible]るゝにては限りなきこと[illegible]勸業模範場に照會し同場[illegible]の差支なき限り希望者に[illegible]云ふ

●森林調査員の歸期　[illegible]同江の上流に於ける森林[illegible]張した山林課員より[illegible]に其調査を終り漢江に出[illegible]は來る廿二日大同江方面[illegible]部は廿七日何れも歸廳す[illegible]

●奧宮技師の渡來　大藏省[illegible]朝鮮總督府囑託なる奧宮[illegible]狀況調査の爲め近日入京[illegible]

●ハリス博士の出發　[illegible]中なるハリス博士は來る[illegible]地出發日本內地に向ふ筈[illegible]

●栗原判事の逝去　[illegible]部長栗原藤太郞氏は此[illegible]所部長に轉任したるが出[illegible]膽窒扶斯に罹り公州に於[illegible]しが遂に十六日逝去した[illegible]十年一月舊韓國政府法[illegible]來任以來前後五ヶ年間[illegible]て令聞ありし人なりと

●朝鮮研究會移轉　[illegible]般業務擴張の爲め永樂町[illegible]番戶に移轉せり

●相場電報（十七日）

●仁川米豆取引所

[illegible]

●大阪期米電報

[illegible]

●京城雜穀の賣買

[illegible]

▲治外法權

[illegible]

▲京城手形交換高

[illegible]

京城藝妓の半生 花月樓 勝利（一）

所ら降り續きましては喋れね、左樣でなくとも妾の如なれ譲さんは兎もすると斷が生れ付ね、チトれ限り下さいませんやね、た惚けですか、有りますとも二つや三つは、併し何れも此事はないんですの、アラ全くですよ、れも粗末なのでチツカラ取り止めた併し白狀致ませうかしら、どけ記者の作り言で全くは『何うか其處ん所は宜しい如に』と譯の判らん事を申して逃げるからソツと裏から探つた丈けを披露すべく、勝利、本名は長崎ちやうと申して生れは東京新吉原花の江戸町京町と背中合せの仲の町で當年取つて丁度、エ、五十歳かは恐れ入りますモツトヅーツと若いのです、エ、二十歳、た遊びでは困ります全くの恰二十歳、若いなアと仰云るのは何方ですか甚だ不良い御挨拶ですな、吉原と言へば御承知の通りの所で隨分藝に八釜敷いのだ其所に生れて其所で藝妓をした彼れは又多能多藝である清元、長唄、常盤津は元より河東節も一中節も新内も描くはない斗りか琴も爽れば茶も花もたしなみがある、ヒカないものはビツコとれ茶だけだ相に御座る、十歳で雛奴の名で『れしやア〳〵』と出たが此妓幼にして夙に出藍の譽あり、十四歳にして既に蛎殻町の松井（當時二十八）さんと云ふ後見を見付けた、十七歳の年の十一月可愛い松井さんは彼の世とやらへ旅立たしやんした、憂き世なりけり袖に涙の乾く間もなき其の十二月一本となつて藝名を今の勝利と改めて翌年の三月には既に安田善吉なる紳商を生擒し越ねて五月には小泉[illegible]と云ふ材木商を贔屓とした、處が此の小泉なるものはナカ〳〵の嫉妬男で安田と云ふものゝ有ることを知ると同時に出入の木挽職人を使嗾して安田の所へ押し蒐けさせ勝利との手切れを強談せしめたが安田も然るもの何も言はずに『金二十五圓酒肴料也』れ使ひ御苦勞樣何うぞれ歸り路で一杯た飲んなすつてと体よくれ使者を買收に及んで肝腎の小泉の方へは口から出任せの返事をさせて置いて一方勝利に斯くと告げたので勝利は思案の末小泉の方を棄てるべく決心し其の旨を打ち明けて安田に十四五日間何處へか身を匿して下さい其の間に手を切るからと神戸に避けさせた跡で勝利は小泉を呼び寄せて『安田さんとは立派に手を切りました以上義理として貴郎のれ世話になつて居る譯に參りませんから今日限り關係を絶つて頂きたい』と切り出したが小泉ナカ〳〵聞き入れゝばこそ愚圖々々して居る間に安田が木挽を買收した事が發覺に及んだので騷ぎは一層大きくなり相なので勝利は三十六計の奥の手を出して神戸の安田の宿へ逃げたのであつた

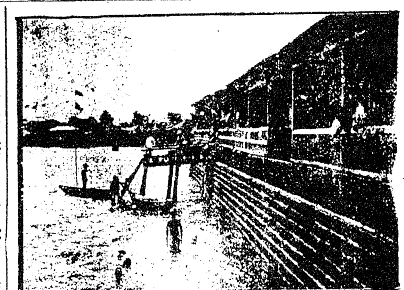
共産主義者斬らる

▽加害者は總督府巡査

十五日午後六時三十分頃鐘路通り東洋生命保險會社支店裏鮮人部落下宿屋上州博多屋に於て故殺事件ありたり事や秘密に付せられ居るを以て我社の探り得たる顛末を記せんに加害者は鹿兒島縣人にして小田終介（三三）とて昨年秋總督府巡査を任命し北部警察署勤務を命ぜられ職務熱心の人物なりしも鹿兒島氣質とて短氣の性質を兼て酒癖惡き風評ありて宴會其の他の酒席に於て醉狂なす事ありと

▲被害者の素性 被害者は東京府士族吉田龍郎とて目下西部署管内に居住し土地測量製圖を業と爲し居る者なるが元陸軍騎兵少尉にして現役當時酒色に耽り官より支給せらる俸給にて不足を生じては部下の下士卒を昇級せしむと稱しては幾多の者より郷里に送金を求めしめ之を借り受け浪費し放蕩淫逸甚だしく爲に[illegible]共産主義を稱ふる[illegible]擯斥[illegible]遂に勅裁を以つて免官せられ夫れより二六新聞に記者として從事せしが放蕩淫逸一層甚だしくなり新聞記者の名を亂用して恐喝取財を爲す聞數うより是又解雇となりしが東京に於て共産主義者の群に入りしも其筋の取締嚴重になりしにぞ昨年秋鮮せしが周旋する人ありて鮮人の經營に係る北部管內所在土木會社に入り會計係りとして勤務中獨立を思ひ立ち退社して鮮人相手に從業中なるも太法螺許り吹き廻り共産主義を鮮人に吹聽せんとする恐れありて其筋の注意人物となり居りし者にして加害者とは去月中旬より知己となりたる者なり

▲犯罪の動機 及 手犯罪擧行 當日は加害者小田巡査は非番にて休日なれば朝より下宿屋にて遊び暮し居りし折柄午後一時頃被害者吉田龍郎が訪問し來りしより互に一杯飲んで下宿の女將に酒肴を頼みて世間話しに酒は次第に廻り被害者吉田は共産主義を稱へ出し世界は自己の物の如く大法螺を吹き出し、遂に小田巡査に對して罵倒する事甚だしく茲に於て豫て酒癖惡き小田巡査は失禮千万なり人民保護の警官を罵詈するとは不都合なり薩州男子を知らぬかと一刀の下に斬殺さんと立ち上り室に掛けある職務用の劍をスラリと引き拔き被害者の前額に三日月形に斬付けるや被害者は聲をも得立てず卒倒し二の刄にて咽喉部に止を刺して即死せしめたり 加害者は此の儘自首すべしとて現場を抛出したるにて所轄北部署に急報せしより北部署は非常線を張らんとする際既に加害者は逮捕され同時に司法主任警部は警察醫と共に檢視に終つて北部署に殺害を開ら取調終了直ちに檢事局に送りたり



涼味（品川）

如露如電

▽花婿花嫁を殘して逝く

原籍徳島縣海部郡日輪佐町二十二番地藤井政吉（三五）は當時鎭南浦馬場精米所內事務員として勤務中藤日向なく主人大事と職務に熱心したるにぞ主人の信用厚くして重任に當りつゝありしかば相當の小金をも蓄へ得たるより去五月中歸省し知人の媒介を以て同縣板野郡竹瀬村六十九番地宗太郎の次女かつ（二二）と云ふ素的の美人を妻に迎ひ目出度結婚の式を擧げ鶯鶯の番ひ只ならず新婚旅行にはあらねど新夫婦は再び鎭南浦に歸るべく去る十四日大阪出帆の福州丸に搭じたり船中二人は嬉々としていと睦しく時折寢物語りに囁く言餅に他の船客をして羨ましからしむる體なりき越へて十六日午前七時三十分に至り妻のカツエは目を覺したるに夫政吉は平素早起きなるにも關らず未だしも熟睡中とはさては船中の疲れかと思ひやり居たるに何時まで過てても更に目を覺す樣子の見えぬにハテは不審と毛布を取除け揺り起さんとせしにコハソモ如何に夫の身体は氷の如く冷たく手も足も伸ればこうち妻のカツエはワツと聲上げて泣出せば船中の一同驚きたるも船內にては應急手段の方法も無ければ其儘同日午後〇時四十分仁川に入港し直ちに其筋に急報し壬夫檢疫醫官及び仁川病院尾上醫士其他警官出張檢視を遂げたるに腦充血にて死去したるものと判明し死体は妻のカツエに引渡し同日仁川本願寺に於て假葬儀をなし尙十七日午前十時仁川發同船にて鎭南浦に於ける故政吉の從兄弟の許に死體廻送したりと云ふ新婚の夢圓かなる時に於て行衛も知らず波の上にて二世と契りし所天に死別したる新婦の心思ひ遣だるに哀れなり

●不良果物押收 西部署に於ては時候柄不良果物一萬餘個を押收したりと

●チブス 櫻井町四十五番戶前田その（一八）はチブスに罹り齊坡病院に入院せり

●觀音講說教 若草町一丁目觀音說教所大本山別院にては十八日午後七時半より同講員の新講堂を擧行し田中道圓老師の說教[illegible]の詠歌あり

●窃盜 金在成（一八）張德鉉（一三）は何れも窃盜犯にて檢事局に送らる

▲本日は第一種藝妓のれ噂を申上ます此の陽氣に陰氣臭い噂は禁物出度年開き自前で京城〳〵▲消華亭の今奴芽勞番にて稼ぐ嘆の處故障があり細樂らす消華亭にて働く事に成つたと申す▲井門の政子は此の頃若くなりましたよと申す者ありと申す▲同家の政奴相變らず豆腐が好きで毎日鰹節を削り居る此れがホントに猫に鰹節ニャらん▲花月の光菊は女學生氣取りの夫れが呼び者になつてナカ〳〵の流行見なるが座敷の取り持ちも巧みに手練手管も又拙からず民團議員二名迄を兩手に花、光菊曰く、夫れや何と云つても鮮が親切だワ義太夫が巧手程あつてね▲松葉亭の呑平駒江は時松と改名致したり理由は駒江では若過ぎるからと申し居れど實際はね彼の人から『時を待てよ』と云はれたのを得心した證據に『エ、五年でも十年でも貴郎の事だから妾しや温和しく時を松』へツ甘く見るな此ん畜生▲開進亭の小萬は將校倶樂部某に落籍されました▲同亭の金玉は廢業の上避暑稼人となる後見は某辯護士、義太夫に限り知己のれ招ぎに應ずべしと本陣は番町▲菊家の喜代次は淡泊で藝も達者生花もやる裁縫も文字も巧手な僻に少々折り屈みに非難ありと申す、エ、其の方ですか、存じ不申候也▲同家の菊枝も目下琴香茶活花を熱心稽古中なり元來が此の道の天才上達も速かなりと云ふ近き將來に於ける京城の名妓たるべし▲同家の雛妓百合子は愛嬌をポロ〳〵零し居候▲清水席の笑太郎は太郎さんが滯京中とて▲政彌は本町一丁目の去る商人の處へ▲萱は寫眞にキツス斗り致し居る▲翡翠のい京は來る十月を指折り數へて▲花月のれ筆は契約年期は滿けたるも或る名目の借金に拘束せられ居るとは可愛相なり

●演藝だより

●歌舞伎座 連日の暴風雨にも拘はらず大入札止めの大人氣なる木村猛夫一行十八日の替り狂言は一座獨得の『俠客生』なりと因に十七日は不如歸の答なりしがれ好みにより都新聞所載伊原靑々園作『吉原心中』と變更したり

●五雲會例會 來る二十三日晝十二時半より京城[illegible]町有明樓に於て第五十四回例會を開催すべし番組左の如し 米窒（齋藤氏、ツ小泉氏、上郎氏）七騎落（田中氏、ツ見島氏、吉住氏、子路島氏、立河合氏）西月（島田氏、ツ田淵氏）黒塚（三浦氏、細山氏、ツ中西氏）小鹽（松田氏、島氏）

●浪花節 十八日より浪花光露一行の浪花節なり初日の讀み物左の如し 五郎正宗（吉川小蝶）田宮新十郎（京山君園）伊達和島和靈實記、義士銘々傳勝田新左衛門、黄門西國漫遊記（浪花光廣）

▲連日の降雨に河川の氾濫地盤の陷落等漸々として傳へらるゝ處に此れは又一大事こそ出來したり富士山の崩壞は之れなりと書き出すとチモ大事件の如なるが事實は我名山不二に憧憬せるンタクホテル主人が其の庭園に多額の費を投し奇巖怪石もて築き上げたる朝鮮不二が昨日の大雨で凄しき音を立てゝ崩れた主人公夢中で山崩れ〳〵と夢中になる家中の混雜は大したものボーイは『何んて聞が惡いんでしよう』と叫んで叱られる騷ぎ損害額は目下取調べ中（通信生）▲京城商業會議所も會頭問題の悶着から活動休止の姿だつたが漸く落着した樣だナ（一商人）▲朝鮮人間には前代議士は意志堅固な者として持てるが現代議士さ來ては意志薄弱なるものとのみ誤信して持てぬこと夥しい▲とは知らぬ前變代議士森肇君現代議士辯護士勳四等の名刺を鮮人間に振り撒かした處が事情前記の如しとありて森君早速名刺を改刷して又候振り撒かした▲鮮人曰く『現代議士の意志薄弱なることは此の名刺の文字の變改に徵して知るべしだ』と▲森君夫れと聞いて目をパチクリ『廣告も困難いものだなア』▲異に貴說の如し（風聞子）▲高等商業出身の會社員なるが位地閑靜風光清雅な二階二間借受けたし（旭町生）▲此頃永樂町二丁目派出所附近の人通りの温突で賭博を盛んに行つて居る又夜分は雨降りの事とて大聲を揚げて行つて居る（永樂生）▲漢城衞生會の糞尿汲取方は連日の降雨と雖も迅速に願度し此頃の降雨には惡臭鼻を衝きて閉口なり（衞生生）▲娼妓檢黴の醋なること驚く斗り實に無法です（[illegible]郎通）▲辰市さんは法廷には出入に成さらんが夫れでも金廻りが宜しい何か不正の事でもするのぢやないかと云ふ樣に評判する者がある相だが決して然う云ふ方ではない資家は大した財產家です（一門下生）▲龍山の居留地は何んだ彼だと難癖をつけて市街から三十丁も隔つた不便な地へ追ひ遣られた爲め使用するものがない設備に費した五六千圓は立ち腐れだ夫れに反して京城では人家稠密な櫻井町で許してある龍山と京城直接の所管が違ふにせよ同じ警務總監部のれ膝下で隨分の不公平なり（一人）▲京城有價證券何んとか組合の諸君何うか手固く行つて頂戴よ（れ顧生）▲本町二丁目在來の店南大門通新築家屋に移轉に付陳列棚及臺雜具居拔の儘安價に讓る望の方は壽多金光堂へ